

災害問題

問 要援護者避難支援プラン策定状況は
答 4地区で作成の支援マップによる



篠崎 久美子 議員

【避難支援プランについて】

問 緊急避難時に支援を要する人への、避難支援プランの策定及び周知状況は。

村長 個別計画と関連する地域支え合いマップは4地区で作成済み、2地区で作成中です。周知は全体計画策定当初時に民生児童委員会にて説明し、ホームページで公開しています。

問 要援護者登録制度への新規登録、変更は。

村長 新規登録は申請方式、登録事項の変更は届出方式ですが、実際は支援マップ作成時に地区役員が訪問し、

同意を得て新規登録しているのが大半で、関係者から情報があれば変更します。

問 避難に時間を要する人、視覚および聴覚障がい者、外国人への対策は。

村長 視覚及び聴覚障がい者の情報伝達は、防災行政無線、ユーテレ白馬を活用し、外国人への母国語での



撤去予定の白馬中学校プール

情報提供の具体的対策はしていません。最終手段は要援護者宅への直接伝達に限ると考えます。

問 村内介護事業者との連携状況や方法の確認は。

支援者数の充足状況は。

住民福祉課長 連携確認と方法は今後の課題です。支援者の必要数の把握はしていません。

【中学校グラウンドについて】

問 部活動時のグラウンドの広さの状況は。

村長 教育施設基準は達成している面積です。

問 使用していないプール撤去の考えは。教育基金の現在高は。

村長 財政面が許せば来年度以降、残土処理等の処理の確保ができれば今年度中にも着手したいと思えます。基金現在高は約1億3千万円です。

【観光について】

問 第8期観光局事業計画における村の重点観光施策、局との連携方法は。局

のあり方の検討は。

村長 重点施策は冬期観光、山岳観光、インバウンド事業、東日本震災対策事業です。局と村との業務区分けは大事で今後の検討課題です。観光推進組織体制を改めて検討したいと思えます。

問 観光への住民意見導入の機会やボランティア参加は。

村長 今後の事業に大勢の参加を計画していきたいと思えます。

問 ふるさと白馬応援し隊の状況は。

村長 登録者は33名で、年4回会報を発行し、会員専用のサイトを開設して意見交換の場としています。運営自体の研究はさらに必要と思えます。

問 人材育成の方法としての現在の局派遣の任期は。局長派遣の任期は。

村長 平成24年度に検討したいと思えます。局長派遣は2年ほどを目安としています。